



# 市議会だより

かかみがはら

発行  
各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69  
電話058-383-2001

編集  
市議会だより編集委員会



博物館内へ飛行機を引っ張る子どもたち (1月20日・岐阜かかみがはら航空宇宙博物館)

## 12月定例会

主な議案	2
委員会審査	3
審議結果	4
市政を問う 会派の代表質問	
平成30年度予算編成方針	5
歩道の整備の方向性	5

市政を問う 一般質問	
トップセールスの意義と成果	6
教科化を見据えた英語教育	7
インバウンド需要の展望	8
妊娠期から子育て期の支援	9
空き家対策と移住定住総合窓口	10
委員会調査報告	11
市民の声、ひとこと	12

## インバウンド需要の展望

空宙博を中心  
空宙博を中心

▽問 本市における訪日外国人旅行者(インバウンド)の分析は。

▽答 平成28年は国内に2400万人、県内でも過去最高の97万人のインバウンドを記録した。

本市では、3月24日の岐阜かかみがはら航空宇宙博物館(空宙博)のリニューアルオープンや、オリンピック・パラリンピック東京大会の開催などにより、インバウンドの増加が予想される。

こうしたことから、空宙博を中心とする市内施設への誘客につながり、インバウンド需要は高まると分析している。

▽問 外国語ボランティアを募集する考えは。

▽答 インバウンドの増加に対応するため、外国語ボランティアの育成は必要であると考えている。今後は、国際協会と連

携して研修会を開催するとともに、ボランティアの募集や人材発掘などを進めていく。



活躍する外国語ボランティア

▽問 公共施設などで、多言語表記の考えは。

▽答 空宙博においては、日本語に加えて英語、中国語、韓国語に対応することを原則としている。その他の施設については、スペースの都合で表記が困難な場所もあるが、看板の修繕などにあわせて対応していく。

## 各務原にんじんのブランド化

▽問 産学官連携協定による成果は。

▽答 各務原にんじんを知ってもらうため、11月24日(い・い・にん・じんの日)と制定し、さまざまなPRを実施した。例えば、学生が考案したレシピを基に商品化されたお菓子の販売などを行った。

また、各務原にんじんの歌と体操も考案され、啓発用CDの作成に取り掛かるなど、協定に掲げる事業の柱「商品化」「レシピ開発」「啓発事業」を着実に展開している。

▽問 開発した商品を各務原オリジナルのお土産品にしてはどうか。

▽答 各務原にんじんをアレンジした商品のブランド名を募集し「かかみの台地のしずく」と決定した。

広く愛称を利用してもらえるよう、事業者に呼びかけるとともに、観光協会に推奨特産品として認定してもらえよう、働きかけをしていく。



学生が考案したにんじんを使ったお菓子

▽問 にんじん選果場が稼働したことで出荷量は増加したのか。

▽答 平成29年の「春夏にんじん」の出荷量は2088トンで、前年比約200トン増加、耕作面積は4・5ヘクタール拡大した。

にんじん農家の方からは、施設を利用することで作業負担が大幅に軽減され、楽になったとの喜びの声が聞かれた。

## 教育センター「すてっぷ」

▽問 相談部門および研修部門の実績は。

▽答 相談部門では、7月の開所から11月までの相談件数が669件で、発達や不登校に関する相談が7割を超えていた。研修部門では、6名の教職員特別指導講師が各学校へ出向き、現在74名の教職員が指導を受けている。

また、夏季研修では、全ての教職員が自己課題にあった講座を受講した。

▽問 今後の課題は。

▽答 相談件数が増加していることから「すてっぷ」に対する期待や、ニーズが高まっていると考えている。今後は、臨床心理士や発達支援員による継続相談や、相談対応のあり方や、授業改善に重点を置いた研修などの充実を図っていく。